
START地点。

野脇幸菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

START地点。

【Nコード】

N9871E

【作者名】

野脇幸菜

【あらすじ】

帰り道に少年は考えを巡らし…。

少年Aは学校の帰りに今日あった嫌な事を思い出していた。
相手はAが気にしているとは思っていないだろうがAはやりきれない気持ちだった。

そして、考えているうちに今まで生きてきて
自分にとって嫌な事を蒸し返していた。

今日の事はそれを考え始める障りの部分だったのだろう。
大抵、嫌な事を考える時はいつもいつの間にか
過去の出来事変わっている。

そして、今度それを考える時は今日の嫌な事が
新たに、
新入りとしてメンバー入りしているのである。

でも、Aはそんな自分が好きなわけではない。
どんなに消そうとしても悪魔の囁きのように頭にそいつは話し掛け
てくる。

でも、今日のAはもっと違う考えを持った。

今、家の前に着いたこの場所からも、囁きからも、

今のAには何の繋がりもない社会からも逃げ出したくなった。

背が縮むとしか思えない重たいカバンを家の前に置き、Aは走った。

すぐに近所のおばさんに出会った。

いつもはどんなにムカついていても、どんなに疲れていても挨拶をニコツとしてやるのに

今日は見ていないフリをして通り過ぎてやった。

自分のよく知らない道に行こうと思っても知っている道に足が向いた。

別にいいや。いつか通った事がない知らない道に出るだろう。

そこからがAにまわりついているものから逃れられるスタート地点だと思った。

でも、そこに辿り着かないうちに精神状態がいつもの自分に戻るだろう。

冷静な自分に戻って情けない思いで、帰途に着いているだろうという事がわかっているだけのいつもの自分に既に戻りかけていた。

けれども、今は走った。風に湿り気がなく何かを浄化してくれるようにで気持ち良い。

他の事を考える余裕も出てきた。

「悪魔の囁き」といっても他人に迷惑を掛ける事を考えているわけでもないし、

そんな言葉を使うべきなのか。

でも自分にとってはそんな言葉を使うくらい嫌な事なのだ。

別の考えに変えてみた。

今、家の前を通っている近所の人、通り抜けをする運転手、迷い人は置いてきたカバンを見て何を思うのだろうか。

忘れ物を思い出して学校に戻った少年のバッグ、家の中に忘れ物を取りに行った

少年のスポーツバッグ。いや、少年とだけに限定するだろうか。

男勝りな少女のバッグ、出張に行く体育会系のサラリーマンの夫、独身息子のバッグ。

旅行もありえる。

Aはまた思った。

そもそもそのバッグを見ている人がいるだろうか。

そのバッグの持ち主の事を考えたりするだろうか。

自分にとって嫌な事ばかり考えている奴がいるかと。

Aはやっぱりスタート地点に着く前にいつもの自分に戻ってしまった。

（一応）完です。

（後書き）

もっと作品が広げられそうな気がします。今の私ではこれまでです。初めて投稿したので、読みづらかったかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9871e/>

START地点。

2011年11月15日10時47分発行